

『いろいろなものに挑戦する友達』

目次

- 1、インタビュー相手の紹介
- 2、仲良くなるまでの経緯
- 3、私の考える彼の性格
- 4、魅力について
- 5、テーマメモから受ける印象と質問について
- 6、インタビュー結果
- 7、日本事情を振り返って

1. インタビュー相手の紹介

私が今回インタビューする人は高校の同級生の友達です。私も彼も秋田県出身ですが、今は違う大学に通っているため、たまにメールで連絡をとってはいるものの同窓会くらいでしか会うことができません。そのためこの機会を利用して懐かしい友達と話をしたいと思い選びました。

2. 仲良くなるまでの経緯（思い出のエピソード）

高校1年生のときは、違うクラスでお互いのことは全く知りませんでした。高校2年生のときから同じクラスになりました。それにもかかわらず高校3年生夏までほとんど話したことがありませんでした。そして3年生の夏に学校祭があり、たまたま同じ担当になりました。その時からお互い話をするようになり仲良くなりました。

○知り合ったころ…○

2年生のとき体育の授業でバドミントンを選択していた時に一緒にやっていたものの会話することがありませんでした。バドミントン中も彼の友達とは中学校から私が同級生だったのでよく話をしていた、その人が言うには彼は結構恥ずかしがりやで人見知りをすると書いていました。しかし、あとから彼に聞いた話によると、恥ずかしいという理由もあったのですが、一緒にバドミントンをやっていた時に私が彼のスマッシュを怖いと言ってしまったことを彼はとても気にしていたそうです。私は、みためがなんとなく真面目な感じなんとなくはなしかけられずにいたけれど、私が彼に言ったこの一言で、彼は自分のことを私が怖がっているのだと思い話かけづらかったのではないかと思います。

○話をするようになってから…○

仲良くなってからは、バドミントン中も話をするようになってたりペアでバドミントンをしたりするようになりました。学校以外でも、少人数で集まって花火をしたり、DVDを借

りてきて映画を鑑賞したりするようになりました。

最初は真面目だという印象しかなかったけれど、仲良くなるとお笑いのまねをして笑わせてくれたりしました。はしゃぐのが好きでやんちゃな感じの人だという印象を受けました。わくわくすることがあるとまわりを気にせずはしゃいだりするみたいなのですが、学校だとなんだかそうすることができないといっていました。私たちのクラスはガヤガヤワイワイ騒ぐような感じのクラスではないので、なんとなく休み時間など静かだというわけではないけれど騒ぐことのできない雰囲気がありました。その理由もあつたから、やんちゃに感じられたのかもかもしれません。放課後学校に残り受験勉強するようになってからは、疲れをとるためだとか言って持ってきたお菓子を交換したりもしていました。新発売の商品や期間限定の商品を買ってきてはみんなでいろいろ食べていました。新発売のお菓子などいろいろ新しいものに、とても興味をしめします。

3. 私が考える彼の性格（しっかりもので負けず嫌い）

彼は陸上部のキャプテンでした。友達の話によると部活では後輩をしっかりまとめる人だといっていました。体育でもバドミントン部とやって、うまくいかないときは自分が納得するまで何度も何度も試合を申し込んでいたので負けず嫌いだなあという印象を受けました。

4. 魅力について

私にとって、やんちゃな一面もあるけど真面目な部分もある人のように思います。はしゃぐときははしゃぐけど、真剣にやる時は真剣にやるというように、しっかりものごとを切り替えてできるところが私とは違ってすごいと感じるところです。それに比べて私は、はしゃいだあとにすぐに集中して勉強するというような切り替えも苦手です。しかし、友達はそのような切り替えもうまいです。そのように私と違ってだらだらやらずに、なんでもすぐ行動に移してできるところに魅力を感じます。

5. テーマメモから受ける印象と質問について

グループの人達はテーマメモを読んで次のような印象をもちました。

- ・背の高い人→テーマメモには身長のことを書いていないのにどうしてこのような印象を感じたのか不思議でした。スポーツをやっているということからイメージされたことだと思います。
- ・消極的で一人でもくもくと頑張っていそう
- ・かわいい人
- ・ひかえめな人

語句の意味について（辞典より）

はしゃぐ…調子にのってふざけて騒ぐこと。陽気に騒ぐこと。

私はこの言葉を子供のように元気があるという意味で使いました。

やんちゃ…子供が大人のいうことをきかないでいたずらすること。

6. インタビューの結果

インタビューの申し込みをした時に公開されることを知ったときは少し驚いていました

が、快く引き受けてくれました。また、この日本事情という授業の内容についても話したときは、パソコンで情報交換や出席をとるという授業の形式を初めて聞いたらしく、「え〜！」というように少し驚いていました。久しぶりに会い話し始めたときは緊張していたのか、少しモジモジしているように感じました。

私の言ったことをA、友達が言ったことをBとします。

《その1》真面目というイメージがあったので、勉強に対して高校の時とどのようにかわっているのかわかると思い、最近の大学での様子について質問しました。

A：後期の授業はどんな感じなの？

B：俺大学の授業で国際社会？地域だったかな…そんな感じのテーマ科目でガンディーの思想学んでるんだけど、その先生が「学生は4年間のうちに新書を100冊読んで教養を高めろ」って言ってたんだ。

A：100冊？1か月に2冊くらい読まなきゃいけないじゃん。

B：でも俺早速1冊目買ったし。

A：でも100冊は無理でしょ…

B：興味ある本ばかり読むんだったらそれなりにはできるんじゃないかな…続くかはわからないけどやってみようかなって！

A：まあ100冊いなくても本読むといろいろ身に付くからね。

B：おまえもやったら？

A：わたし本読むの大嫌いだし…

B：なんかそんなこと言ってたの聞いたことある気がする。

この授業を選んだのは、シラバスに『私の語りが教科書です。』と書いてあったためこの先生おもしろそうだと感じたからだそうです。シラバスには、ノート提出があるなどとは書いていなかったのに、最後の授業にノート提出があると急に言われたりしたとっていました。今はこの授業を選んで後悔しているとのことでした。

高校の思い出とか高校の先生のことを話しているうちに、数学のことについての話題になりました。

A：数学とかは？

B：あのさあ、俺文系なのに理工学部向けの数学の授業とっちゃったの。

A：シラバスみなかったの？高校の時、数Ⅲほとんどやってないじゃん。なんでそれ選んだの？

B：シラバスには理工学部向けとかかいてなかったし微分積分って書いてたから、ノリで微分積分くらいならできるかなって思ったんだ。そしたら大嫌いな極限から始まってさあ〜もう最悪。

A：でも頑張ってるでしょ？

B：うん、俺真面目だから。(笑いながら)

A：ホントかよ？

B：ホントだし。教科書よくわかんないから参考書みて問題解いてるし。こんなに予習した

ことないってくらい予習もしてる数学だけは。

A：それはすごいな。でも高校のとき数学好きじゃなかったっけ？

B：かなり好きなほうだったよ。でもこの数学全然解けないんだよ…しかもその先生おじいちゃんて声聞こえないし、字もきたないし、黒板の字を自分の体で隠しながら説明するし。もう授業のときどうすればいいかわかんない。

A：先生そんな感じなのか…友達とかはその数学やってないの？

B：やってない。たまに参考書見てもどうしてもわからないときはサークルの理系の友達に聞いたりするけど。

A：わからないところそのままにしておくのはいやだから聞くしかないね。先生がそんな感じなら。

B：僕数学の授業最初はすごくやる気あってめっちゃ勉強意識あったんだけどだんだん難しくなって、それでも先生の説明はテキストでぼそぼそつぶやくだけだから授業中ストレス溜まる…正直イライラして暴れたくなるんだよね。

A：最初はやる気満々だったけど今は先生のやる気のなさに疲れてきてる感じだね。

B：だから今はもう個人的にどんどんやってる。

A：大学は自分で勉強するのがあたり前ってところだけど…なんかう〜んって感じ。頑張るしかないね。

《その1》の項目から、シラバスに書いてある先生の一言だけに興味を持ち、内容も見ずに履修を決めたりすることから、あまり深く考えずに適当に物事を決めるという一面があるけど、子供のように怖がらずに、初めてのものには何でも挑戦するというような冒険心を持っていて、いろいろなことに興味をもちいろいろ取り組んでみようとし挑戦するので意欲的な人で好奇心旺盛な人だと思いました。

また、高校のときと変わらず、先生に対しては不満があるみたいですが、勉強は真剣にやっていると感じられたので真面目な人だと思いました。自分でやると決めたことは、最後まで必ずやり遂げるという信念を持った人のように感じました。これはスポーツの面だけでなく、勉強の面でも彼の負けず嫌いな性格があらわれているからだと思いました。地元に戻ったときにあったときも、私に宿題になっていた問題を聞きにきました。私も同じ分野の微分積分をやっているものの、彼に聞かれた問題を解くことはできませんでした。全然役にたつこともできなかったのも、勉強している量が違うと感じ、私も頑張らなければと思われました。

《その2》性格について聞いてみました。

A：恥ずかしがり屋なの？

B：自分ではそう思わないけど…シャイ？

A：どう違うかよくわかんないけど。

B：そこは想像に任せるわ（笑）

A：なんかほかに自分の性格で気づくことある？

B：自分では性格わからなくないか？優柔不断とか～？

俺 B 型だから本屋で B 型自分の説明書見れば早いんじゃないか？

A：何のためにインタビューしてるとおもってるの？

B：普通に性格いってもつまんないかなと思って。自分の性格は自分ではよくわかんないな。

A：そうだね。でも新しいものとか食べたことないものには挑戦しようと思うこと多いでしょ？

B：でもとりあえず1回も食べたことないものとかやったことないものとかには手を出してみたいと思うなあ。やんちゃとは違うかもしれないけど。

A：積極的ってことだね。

B：そういうことだね。

私が率直に性格について質問したため戸惑ったということもありますが、自分がどういう性格なのかあまり考えたことがないとのことでした。

ときどき私を自然に笑わせてくれる言葉をまじえながら、私と話してくれました。また自分からずっと話すことはなく、一言二言でしゃべるのを終わるという感じでした。これは、恥ずかしいということもあると思いますが、相手の話も聞こうということなのだと思います。私は思ったことあまり深く考えずにズバズバ言うので、友達とは反対だということがわかりました。

今回のインタビューでは、テンションが低いという印象はなかったが、はしゃぐ姿ややんちゃであるというような元気いっぱいの友達をみることはできませんでした。授業のことだと思うと真面目に答えないといけないと思ったとのことでした。そんなところまで考えてインタビューに答えてくれていたのかと思うと、思いやりのある人だと感じました。友達は、その場その場の雰囲気を感じ取ることで、はしゃぐときと真面目なときとしっかり切り替えているのだと思いました。

7. 日本事情を振り返って

この授業を選んだときは、一人の人の文化を考えるものだとは知らなかったのですがこの話を聞いたときは内容がつかめませんでした。普段は何も深く考えずに会話をしているのに、インタビューでは魅力がわかるような質問をしたりして、相手のことを考えるのは難しかったです。

また、留学生とグループを組んでやるのは初めてだったのでいい経験になりました。最初、自分から話かけられなかったりしてコミュニケーションをとることができなかったけど、今では自分から話しかけられるようになりました。日本と韓国の違うところなども知ることができました。

ユン ヒョンドン
しっかりしている尹 炫 敦さん。
しかし、どこか不思議なところも…。

G 1
房美仙

目次

1. 紹介	1
1-1・印象的なエピソードや魅力的な部分	1
1-2. 自分にとってどんな人か。	2
1-3. コメントの答え	2
2. ここまでの資料で思うユンさんのイメージ	2
2-1. ユンさんを知らない人	2
2-2. ユンさんを知っている人	2
3. 私がユンさんにインタビューしたいこと	3
3-1. インタビュー（チャット）	3
3-2. インタビュー（会話）	5
4. 結論（知り深くなるたびに不思議なユン・ヒョンドンさん。）	5
5. このクラスを振り返って。	6

1. 紹介

私がインタビューしたいと思っている人は2007年から2008年にかけてハンバット大学から秋田大学へ1年間留学していたユン・ヒョンドンという人です。同じ寮に住んでいたため、とても仲良くなりました。

私はユンさんとお互いに間違っことは責めたり、励ましたりしていました。年の差はありますが、たまには友達のように、たまには兄弟のようにお互いに頼っていました。

1-1・印象的なエピソードや魅力的な部分

最初、会ったばかりの時は私がユンさんのことを怖がっていて、仲良くなるのがとてもむずかかったです。ユンさんはまじめで、思慮深く、しゃべり方もとても大人しかったので近づきに

くいと思いましたが、話すときにわざとらしいギャグではなく、自然なボケで私を思わず笑わせてくれる人でした。

日本にきたばかりのユンさんの日本語能力はとても低く、私を驚かせました。しかし、このため、病院やメガネ屋さんなどに行く時にはほとんど私と一緒に行っていました。ここから仲良くなりはじめ、日本語に自信のないユンさんのため、ユンさんの宿題はいつも私が手伝ってあげていました。テストの勉強もいつも二人でやっていて、テストの後には「助かった～」と言ってもらいました。たまにごちそうにもなっていました。二人でお酒を飲みながら、いろいろな話をすることもありました。仲良くなりすぎて二人の秘密の話や悩みの相談もしていました。たまに口げんかもしましたが、喧嘩の後にもすぐ仲良くなってとても不思議に感じています。

ユンさんは日本でアルバイトもしていましたが、そのアルバイトというのは韓国語の先生のアルバイトで日本語はあまり話さなくてもいいアルバイトでした。私はいつもこのように言っています。「私がお兄ちゃんにとって一番不思議に思っているのは、日本でバイトもやっていたでしょう、そのバイトというのも日本語を使う必要のない韓国語の先生だったでしょう。日本で日本語を話さないまま生活費を稼いでいたというのなの。お兄ちゃんは伝説だ、伝説。」

結局、韓国に帰る日までユンさんの日本語能力はほかの留学生より低かったので、別れる間際まで私を笑わせてくれました。

今回、このレポートのため私がユンさんに「インタビューしてもらえますか。授業でのレポートのためですが…」と言ったとき、とてもうれしいような声で「いいよ！俺がお前に宿題を手伝える日が来るなんて…」と返事してもらい、また笑ってしまいました。

この機会に、私はユンさんともっと深い話をし合いながら、もっとユンさんのことを知り、もっと仲良くなりたいです。

1-2. 自分にとってどんな人か。

ユンさんは私にとってとてもおとなしく、兄弟になってほしい人です。私が大変なことになったときにユンさんにいろいろアドバイスを貰ったり、ユンさんが大変なことになったときには私がお助けしたりしていました。他の人にはわからないと思いますが、私とユンさんはお互い頼りになる存在だと思います。

1-3. コメントの答え

「今は何をやっている？」という質問ですが、ユンさんは日本に来る前に韓国で中学生たちの社会の科目の先生のバイトもしていました。そして、日本にいた時にも韓国語の先生のバイトをやっていました。そして今、韓国に帰られているユンさんはハングルを読めないおばあさん（昔家計のため勉強のできなかつた60代くらいの人たち（男は家計を担うために勉強をした））のためにハングルを教えてあげるバイトをしています。

次は、なぜ「日本語の勉強をやる気もないのに来たか？」という質問です。ユンさんは大阪に1ヵ月間研修で行ったことがあります。大阪はユンさんにとっては初めての海外だったそうです。大阪で文化的ショックを受けたユンさんは自分が井の中のかわずだということに気づきました。そこで、ユンさんはグローバル化に一步進むため、いろいろな経験が必要だと思い秋田に来たらしいです。

2. ここまでの資料で思うユンさんのイメージ

2-1. ユンさん知らない人

- 日本語の勉強をする気のない（日本語に対して）やる気のない人。
- 自分の考えをしっかりと持っているみたい。
- 気力のある人。（劣悪な状況でも道を探す人）
- ふしぎな人。（反応や返事がほかの普通と違う。）
- さぼりやさん。
- 変な人。

2-2. ユンさん知っている人

- ガサツな公務員。
- （話すときのスピードや行動が）遅い。

➤ 変な人。

ユンさんのことを知らない人に対しての「変な人」とユンさんのことを知っている人に対しての「変な人」というのは違いがあると思います。しかし、どっちでも「変な人」という答えが出たことにはびっくりしました。ユンさんは本当に「変な人」なのでしょうか。

ユンさんのことを知っている人（匿名をお願いされました。以下A）に詳しい例をあげていただきました。私の中での「友達」というのはすべてを話せる人なのですが、Aさんはこういいました。

「俺はヒョンドンと知り合いで、仲よしだといえは仲よしだけど、あいつとは絶対話さないことがある。なんなのかは言えないけど、合わないといえは合わないというかも知れない。でも、あのことにあいつの考え方は普通の考えとは違うな。…」

3. 私がユンさんにインタビューしたいこと

私はユンさんに「インタビュー」という枠があつての話と「インタビュー」という枠のない話でのユンさんの違いがみたいです。人々は「インタビュー」という公式な場合には緊張するに間違いありません。果たしてユンさんもそうなのでしょうか。そして「インタビュー」という枠があるインタビューでは私が今までユンさんと仲よしをしながら考えたことや新しく考えたことについてのコメントも書きたいと思います。

3-1. インタビュー（チャット）

質：お名前はなんですか？

答：ユン・ヒョンドンです。

質：秋田での留学の期間は正確に覚えていますか？

答：2007年10月の1日からかな…帰りは2008年8月25日だったね。

質：留学生活で得たものはなんだと思いますか？

答：語学的な面もあるけど、語学というよりは文化的に広いマインドを持つようになった。視野が広がったね。また留学したいと思う。

質：また、秋田に？

答：いや…他のところ。（笑）

ユンさんの留学生活はほかの人より大変な状況でありました。他の人であればもう二度と留学したくないと言ってもいい状況だったことにも関わらず、ユンさんはこのようにポジティブな態度で受け入れていました。私の予想ではもう二度と日本には行きたくないという答えだったのですが、また日本に来たいという答えでびっくりしました。

日本に初めて暮らしたユンさんは最初何も分からず、買物の失敗もたくさんあったそうです。しかし、そのことさえギャグとしていえるセンスのある人です。また今度日本に留学する機会があれば、その時は大都会に行きたいそうです。

質：それでは、留学生活で不便だったことは何かありますか？

答：言葉の難しさよりは、寮で暮らしていたので主に衣食住だったね。

質：なぜ言葉はあまりって感じていたのですか？他の人に任せていたから？

答：ふうん…。まあ、そういう理由もあるね。他の人に任せっぱなしだったし。ほとんどひとりで行動することはあまりなかったからね。買い物とかは一人で行ったってなんもしゃべんなくても困ることなかったしね。しゃべらなきゃならない時ってほとんどみんなと一緒にだったから、俺はしゃべらなくてもよかったし。ああ、言葉が通じなかったから衣食住が不便だったということもあるかな。

このように他の人の前では全然話すことがなかったユンさんだったのですが、いつもサークルの活動には参加し、短い日本語でも日本人と話す機会をたくさん作っていました。ほかの日本語の上手の人よりはるかに大変で、速度は遅いけれどユンさんはユンさんなりに頑張っていました。留学の最中の時は

隣の人が話す言葉を聞き、わからない単語があれば即し聞くような努力もありました。

質：将来、留学生活をもとに日本語を使える職業に就きたいですか？

答：いや、それはない。（確固）

質：（笑）それじゃ、これから日本語を習おうという考えはまったくないのですか？

答：まあ、それはあるね。会話だけでできるくらいなら習いたい。あと、俺の適性に合わないとか、何だかんだ言っても日本語科の学生だから、JLPTの1級は取る予定だよ。

ユンさんは今回JLPTの試験を受けたそうです。しかし、足りない勉強で試験の途中で眠ってしまったそうです。一緒に試験を受けに行った07年留学生メンバーたちは腹が痛くなるくらい笑ったそうです。人生そのすべてがギャグみたいなユン・ヒョンドンさんは遠くにいる私にまで笑いを届けてくれています。

質：あのう…日本語は習いたいとおっしゃいましたが、パソコンも下手でしょう？パソコンを習う気はありますか？

答：まあねえ。俺はパソコンが下手でも今までで不便ないし、それに主に興味もないし。もし、就職した時パソコンの能力が必要であれば、その時は合わせるためとして習うしかないなあ。

パソコンがとても下手なユンさんは留学生向けの授業の一つである宮本先生のパソコンの授業をとっても難しいと云っていました。そんなユンさんのために私は隣に座り、ユンさんを助けていました。日本語が下手なため、先生の説明を分からない時があり、いつも私が傍で訳していたりもしていました。ユンさんは言い訳のように「韓国のタイプ速度はちょっと早いよ。日本語はなれてないから遅いだけだ。」…しかし、いくら日本語とはいえローマ字で打つものなので、絶対嘘だと信じています。

質：急に質問を変えますけど、他人とのコミュニケーション、つまり会話をするということをどう思いますか？定義してください。

答：えっと…。相手や私の考えを交換し理解しあうことかな。

ユンさんは無口な人です。しかし、言うべきことは絶対言う人です。口数が多い人より充実な一言を言うしっかりしたユンさんのことをいつも私は見習いたいと思っています。

質：それじゃ、「きずな」という言葉わかりますよね？その絆は他の言葉で「赤い糸」というじゃないですか？

答：俺は、「絆は業報」だと思う。

（「業報」というのは仏教の言葉で日本語に訳すと「縁」に近い。前世からつながっている絆ということ。善悪の業因によって受ける苦楽の果報）

縁が切れれば付き合いもなくなるし、縁が結ばれるとしたらその人とは仲良くできるし…。俺は流れ次第に絆や縁を向き合うことが大事だと思う。

ユンさんとたまに「絆」ということについて話すのがっかりすることがありました。その理由はユンさんがなんだか「絆」についてああいふ風に言うと「絆」がとても軽いような気がしたからです。それで何度か怒ったこともあります。最近になってはあの言葉も理解ができそうです。流れ次第という言葉は考え方によって軽く感じられたり、重く感じられることもあると気付いたのです。

続く言葉は2回目のインタビューの時にまた提示された「絆」の話についてのユンさんの加わる意見です。

それと、今俺がお前に会ったのも前世になんだかの理由があるはずだよ。俺がお前にお世話になっていたとか、逆にお前が俺に世話になっていたとか。まあ、今考えるとお前が俺に世話になっていたのかな？今俺がお前にとっても世話になってるから。ウハハハ。

私は「絆」について恋人のことだけを考えていました。しかし、この言葉を耳にした時はちょっとショックでした。私と私の友達との間も「絆」でつながれているということを改めて気づいたのです。ユンさんはこのように私がつい忘れていたことを思い出させてくれました。

3-2. インタビュー（会話）

次は、秋田大学から韓国のハンバット大学へ留学している菅野里美さんと仲良く勉強をしているユンさんの最近の生活について話したいと思います。

このインタビューは私が韓国に行った時にユンさんと会って話したことです。自然な雰囲気です話し合うようにインタビューとは言っていません。チャットとは違う雰囲気でした。

房：里美さんとは何の勉強をしてました？

尹：まあね、里美は俺に韓国語を習って、俺は里美に日本語を習う予定だったが…。

房：が？

尹：いつのまにか里美は俺に韓国語を習い、二人で各自の勉強をするようになった…。おかげで俺は英語の勉強をした。

房：おかげですか。（笑）で？ JLPTの1級はどう？他の留学生に聞いたらすごいことだったらしいですね！

尹：…ああ、そうだね…。カンニングしようとしたけど席と席の間が広すぎて…。

房：だからバカってことよ。

尹：まあ、今は就職でいっぱいだから、英語を頑張らなきゃ…。

房：いいわけです！就職やっぱキツイ？

尹：キツイに決まってるだろう！まあ、今俺が計画してるのがあってさあ。そこが決まったら言ってみよう。

房：ウソ…。私にも言えないことがあるの？

尹：決まってから話した方がお前にもうれしいだろう？

房：まあ、いいや。で、先のことだけど日本語は伸びた？

尹：…

房：まあ、里美さんが韓国語できるもんね…。

尹：俺のおかげさ！

房：うそつけ！で、TOEFL, TOEICは受けた？

尹：まだだ。しなきゃいけないことがいっぱいさあ…。

房：大変ね～。でも今まで韓国語のバイトやっているじゃん。塾の先生をめざせ！

尹：それは最後の手段だ。俺は自分の事業所がほしいから…金になる仕事を見つけ出さなきゃ…。

房：私も2年か1年後にはこのようになるってことね…。

尹：年を取るたびに知っていくものは汚い世の中だけさ。

房：まだコドモじゃん。

尹：コラ！

私がちょうど韓国へしばらく帰国していたので、ユンさんと直接会って話ができてもっと気楽に話ができたと感じます。インタビューといおう枠があるときのユンさんはチャットだったからかも知れませんが、自分の気持ちを文字として表現するので一言一言がとても長い感じでしたが、直接の会話ではジェスチャーとかイントネーション、そして表情などで言わなくても伝わるがあるので、一言一言がとても短い感じでした。もともとから真剣な人ですがチャットではもっと真剣になったような感じでした。ということでユンさんも仕様がなくてインタビューという枠がある場合には知る知らずに緊張するように見えます。

4. 結論（知り深くなるたびに不思議なユン・ヒョンドンさん。）

ユンさんとのインタビューは楽しいことばかりでした。笑顔でのインタビューだったのでよかったです。

インタビューという枠がない時の会話と今回のようにインタビューという枠があつての会話はなんだか感じが違いました。

インタビューをしながら感じたことはほかの人に「変な人」と感じられるユンさんが私にはとても(いい意味の)不思議な人に感じられたことです。

やはりその人を知るためには二人きりの深い話が必要だと思いました。

5. このクラスを振り返って。

このクラスを振り返ると最初は全然どのように書けばいいのかも全くつかめず、締め切りに合わせてレポートを作成する度にいつも悩んでいました。しかし、他の学生のレポートを見させてもらったり、先生のメールを何回も読んで、自分なりに理解してレポートを書こうと努力しました。

だんだん書けるようになってから自分のやりたい放題でレポートが書けるということに驚きました。レポートの様式には合わないかも知れませんが、自分なりに満足しながら書いたレポートだったので全然苦しい思いはしませんでした。

秋田市の Brewmaster

長谷川さん

G1 安度炫

目次

1. 紹介
2. 印象的なエピソード
 - ①ビールをつくる人
 - ②ネットと困る質問
 - ③バイト
 - ④免許
3. どんな人、なぜ魅力的か
4. グループディスカッションで出た質問やコメント
5. インタビュー
6. 結果と感想
7. 授業を振り返って

1. 紹介

私が紹介する相手はバイト先の長谷川信さんです。私が知り合ったのは、バイトを始めたときだから、今6ヶ月になりました。店では厨房で働いていますが、元はビールを作る人です。マックスバリューやヤマヤなどでも瓶ビールで売っていて、ビールが好きな人には有名です。

2. 印象的なエピソード

店で働き始めた頃、まだ素人で、外国人だからいろいろ難しい部分があります。注文やお客さんと話すとき、私の考え方を長谷川さんに話したら、ちゃんと教えてくれました。最近は減ったんですけど、時々ミスしたときは肩を強くたたいたり、子供に注意するように怒った表情をしますが、それがもっと頑張るようにと励まされているように感じます。また、韓国やベトナムのニュースを調べて、最近論点になるものを挙げて、日本と比較して冗談とかいたずらをします。時々、長谷川さんが言いにくい話をして困るときもあります。でも、そんな冗談でリラックスさせてくれます。

①. ビールをつくる人

長谷川さんを会ったところは、「あくら」という店です。初対面は店で会わなかったが、その時は、屋台でビールを売っていたからビールをつくる人と見えなかったんです。バイトを始めてから、はじめてビールをつくるのを知りました。韓国では、地ビールという風のがなく、大体が大企業の瓶ビールがほとんどだから、こんな仕事をする人を初めに見たから珍しくて、おもしろいと思いました。

また、「あくら」の1階ではビールをつくる工場があります。大きな釜2個、熟成するタンク、ビールをつくるホープがあって、卓上の上はビールの関連がある本とか、ビールを入れる機械

やタール、瓶がたくさんあります。そのもの全部が興味深くなります。ビールのタールを交換するとき工場の中に行くけど、好奇心だと言うかどうかビールはどうやってつくるか知りたいです。

ビールの種類別に味が違うのが特徴です。あくらビールの大体が普通のビール(キリン、アサヒなど)より甘味があります。普通のビールの形もありますけど、酵母が入って刺す感じのビール、桜の酵母でつくったビールなどくせがあるものもあります。直接つくったビールだから熟成時間や調味によってビールの味が変わるのを味わうのも僕にとって楽しみです。

②. ネットと困る質問

バイト先では韓国人、ベトナム人がいます。面白いことは長谷川さんが韓国やベトナムの最新ニュースをよく知っていることです。今日、韓国の〇〇地域で大きな火事があったとかベトナムで電車はなぜ遅いか、色んなことを調べて教えてくれます。ネットで調べると思うがどこで検索するか、おもしろいニュースを探すようです。

困る質問というのは、ニュースの内容で、韓国のデモに関してでした。「韓国の国民はデモをよくするのか、好きじゃないか。」という質問です。「韓国の人たちもデモがいいことだとは思わないです。デモの形が激しいデモもありますけど、最近のデモは激しくないし、自分をアピールするためだと思います。」と答えた。長谷川さんは「デモをしても変化するのは、あまりないから日本人はそれをする時間も惜しい。その時間をもっと」と教えてくれました。国民性が違うからかも知れません。韓国の国民だったら自分に不当だと思うのをしっかりしないのを我慢できないからかも知れません。この質問は、僕の答えが韓国のイメージで考えられることもできるから、困る質問でした。また、韓国と日本の食卓の礼儀についての質問。韓国はスプーンと箸をよく使うから、日本と違う点が多いです。酒とか飲むときも目上と目下の人が飲む方法とかなぜそうするのかに説明するにのが難しくて、困ります。

③. バイト

長谷川さんは大学のときから「あくら」でバイトをしました。今も、ビアカフェ「あくら」というみせではバイトみたいな感じでやっています。工場では、ビールをつくる職人だけど、それが終わったらビアカヒェの厨房で、料理を作ります。ここで働きながら客さんと話を参考して、つぎのビールのイメージをするのが役に立つと聞きました。

④. 免許

長谷川さんが話したことを間違えて直します。テーマメモ1の最後の文章で、地ビールは発泡酒です聞きましたと書きましたが、それを間違えました。地ビールもビールです。ただ、外国では区分がないということでした。日本ではビールと発泡酒の免許があって、ビール免許を持つ人はビールしか、発泡酒の免許を持つ人は発泡酒しかつくることができます。テーマメモ1でビールは調べましたから発泡酒について辞書で調べました。

3. どんな人か、なぜ魅力的なのか

魅力的に感じたのはビールを作る人を初めて見たからかもしれないです。韓国では普通は大企業のビールしかないですから、ほんとにびっくりしました。今まで飲んだビールと違う感じもあって、おいしくて珍しい感じでした。それで、長谷川さんは秋田大学を卒業して他のところで就職を決めたんですが、ビールも好きだし、ここに就職するためにドイツに2ヶ月くらい留学もしました。他の人には出来ない自分ならではの作ったビールの味と自分自身の職業を誇るのがかっこいいと思います。

4. グループディスカッションで出た質問やコメント

*地ビールについてです。ビールが好きな人は知っている人もいるけど、私もここで働いて後から、こんなビールもあることを知りました。韓国でも、ビールを直接作る店はないと思います。Yahoo!辞書には、簡単に「中小の醸造会社によりその土地で少量生産されるビール。1994年（平成6）の酒税法改正により、年間最低製造数量が2000(キロリットル)から60(キロリットル)に引き下げられたことにより生産が始まった。」と書いています。

*発泡酒(はっぼう-しゅ)

1 炭酸ガスを含んだ酒。シャンパンなどのスパークリングワインをさすことが多い。

2 酒税法で、麦芽を原料の一部とした酒類で発泡性を有するもの。

5. インタビュー

12月15日、月曜日の夜7時ぐらいインタビューをする約束をしました。場所は長谷川さんがバイトだから、「あくら」でした。インタビューはバイトをしながら少しずつしましたので、インタビュー内容で編集して入れた部分もあります。今回のインタビューは長谷川さんといろんな(個人的)話もしたいと思って、僕がバイトがない日にしました。

また、長谷川さんはビールをつくる独特な仕事だから、今まで新聞や県内のテレビ番組でインタビューしたことが多く、僕とインタビューするのもおもしろいだと思って気軽に応じてくれました。

H : 長谷川 A : 安度炫

H : じゃ、何についてインタビューするか決めたか、決めたら始まってもいいよ。紙とかで質問を書いてするのが普通だけど…

A : そうですね。でも、今までインタビューした内容もあるし、僕は普通のインタビューとは少し外れてもいいと思って。紙じゃなくて、録音するものはあります。前のインタビュー内容や個人的な話は、後で編集しますので…

H : そうか。わかった。じゃ、質問は?

A : (笑いながら)個人的な話で、恋人はいますか?

H : 俺は秘密主義だから言わない。

A : じゃ、結婚はいつしたいと思いますか?

H : お前がいる間にはしない((笑))。多分、キユウが卒業するまではするかも…結婚というのは、相手と一緒にしないとできないから…

A : じゃ、恋人はいますね((笑))。

H : それは秘密だよ。俺は秘密主義だから…((笑))

A : ドイツではビールをつくる人とビールのつくり方なんと呼びますか?

H : Brewmaster(ブルーマスター)。資格は、ドイツの大学でビール関連の学科を卒業したら、与える。大学は2つしかないけど…他にも方法はある。ビールをつくるのは簡略に説明すると(真剣に) …(省略)…

A : ビールをつくる作業は おもしろいですね。つくるビールによって、温度調節したり、麦芽や酵母を調節して、ビールの甘味を調節する。黒ビールの方は甘いのが多いですけど、なぜですか?

H : 大体のビールには2つの糖分がある、酵母がその糖分を食べて甘味がなくなるけど、黒ビールの方は1つの糖分は小さくて酵母が食べてなくなるけど、もう1つの糖分は大きくて、食べない。だから、黒ビールの方が甘いのが多い、でも種類によっては甘くないビールもあるから…

A : そうですか。それで、甘味を調節するんだ。やっぱり、おもしろいですね。さっき、飲んだベトナムのビールより「あくら」のビールは大体、甘いですね。

H : さっきのベトナムビールはなかなかいいビールだね。俺のビールよりはまあまあだけど…

俺は普通のビールより特徴があるのいいだと思ってるから…

A : 自分がつくったビールは何位ぐらいだと思えますか？

H : それは言わない。お客さんがおいしかったら、それで十分じゃないのか？

ビールを飲みながらインタビューをしました。ベトナムの[Bia Ha-Noi]という缶ビールでした。長谷川さんとテイストしながら、普通のビールより辛口じゃないですか聞いたら、米が入っている。と答えました。やっぱりビールをつくる人だから、ビールの成分もよく知っていると思いました。ビールをつくる方法を簡略に教えてくださったが、話でイメージするのも難しいと思って省略しました。麦芽を煮込んだり、温度を調節したり、熟成期間を変わったりおもしろいと思いました。特に、ビールの種類によっては酵母が味を調節してくれるのも初めて知りました。長谷川さんは自分のビールについては自身がありました。僕もおいしいと思います。甘いビールが多くて、いっぱい飲むのはつらいですけど…長谷川さんは自慢をしなかったんですけど、つくったビールがドイツのビール大会で優勝したこともあります。

A : ビールつくる仕事以外に他の仕事だったら、何をしていたと思えますか？

H : この前、話したことがあるけど、秋田大学卒業して、就職は決めたんだよ。東京の会社だけど、支店で…ここで(秋田、仙台の方)働いたと思うけど…

A : じゃ、この仕事をして良かったんですね。よく似合うと思えますが…

H : そう。そうかな。この仕事じゃなくて、他の仕事をやっても、僕は今と同じだと思うけど…

A : そしたら、後悔しますか？

H : 別に、そんな意味じゃないけど…お前が学校で通って勉強するのと同じだ。俺はここで働いているのが当然な感じかな。

A : この仕事をして、つらかった経験がありますか。

H : ないけど、ここで(あくら)で働いているとき、お客さんはビールつくった人を知らないから…まあ、味についてね。その以外にはないかな。ビールをつくるときはない。

A : 楽しかったときは？

H : え、と、あまりないかな。この仕事しながら楽しかったとかつらかったときがないと思う。お前、学校は楽しいかつらいか。(別に)そう。俺もただだよ。楽しかったとかつらかったのは、その日の気分によって違うけど…気分によって…

長谷川さんをはじめて見たときも楽観的な人だと思ったんです。イメージとぴったり合いました。でも、ちょっと違ったのは仕事にこだわらなかつたという点です。後悔はしないけど、他の仕事をして関係はなかつたと感じました。僕が見る限りは、よく似合うと思えます。まず、長谷川さんの顔がえびす顔と似ているからです。

僕は、このバイトをやっておもしろかったと思います。韓国では、経験できないし、客さんと話しながら、日本の文化を習ったからです。でも、日本語が通じない時が一番つらいです。やはり、まだだなどがっかりします。だからそれが原因として、もっと勉強したいと思う気がします。

A : 長谷川さんの韓国のイメージは？

H : よくない((笑))。俺はネットで韓国を見るから、大統領、税金、アメリカ牛肉、竹島、いろんなことで、激しくデモしているから…直接、韓国を見るとは違うけど…

A : ネットでの韓国はごく一部です。韓国はいいところもいっぱいありますから…デモというのは悪いイメージですけど、最近韓国のデモは過激なデモはほとんどないです。韓国人はデモと呼ばないで、集会と呼んでいます。昔だったら、本当に過激なデモだったと思えますけど、今はないですね。じゃ、日本はあまりデモしないですね。

H : それがデモじゃないか((笑))。日本もやっている人はいると思うけど、俺はデモする時間も惜しいと思う。韓国はなぜ、デモするかが理解できないな！

A : 不当だと思えることを我慢しない。デモしたら、変化すると思えますから。じゃ、「あくら」で韓国人3人見ましたが、韓国人のイメージは？

H : 韓国のイメージとは違う。直接見たから、見た限りは日本人の若者と似ている部分が多い

かな。日本人よりは、素直に表現するかな。でも、ここで(秋田)デモしたらイメージが変わるけどね((笑))。韓国人と日本人は似ている部分が多いと思う。中国はわからないけど、8年前ここでバイトした人はいるけど、韓国人よりも強い感じだったかな…ベトナムは…((笑))…キユウを…((冗談))

A : ここでデモしますか((笑))。(デモしても良いけど…((笑))…)

そうですね。あまりデモをしないですね。なぜですか?

H : 日本は我慢する文化かな。そんなこと言うのが「恥」だからな…

A : 「恥」ですか。うーん。なぜ「恥」かうまく理解できないですね。

メディアの力を感じました。長谷川さんはネットで調べるからネットの記事の内容でイメージします。最近の記事をよく見るから、韓国のイメージが悪くなるのも理解はできます。でも、韓国人は直接経験しているからイメージはいいと思います。また、長谷川さんが恥について説明がうまくできなくて理解するのができなかったんです。たぶん、韓国人と日本人が恥を感じる部分が違うと思います。韓国は不当なことに我慢しているのは、バカみたいです。もちろん、限界までは我慢するけど、後は直接言うか行動するかです。日本人が見たら短気に感じるかもしれないですけど、そんなことを恥だと思わないです。

A : アジア以外に、外国人はどうですか?今は、学校のヨハネス先生と親しいと思いますけど…

H : おもしろいと思う。でも、日本語ができない外国人と付き合うのは難しい。やっぱり、言葉が通じないから、日本語ができれば親しくなるけど、それは韓国も同じじゃない?(はい。)ドイツで留学したとき、いろんな国の友たちと付き合ったから他の国に留学するのもいいと思う。

A : 僕もそう思います。確かに目が広くなると思います。今も悩んでいます、またどこかで留学したいです。

H : まだ、若いから大丈夫だよ。もう一回しても…

A : 若いかな((笑))。多分、年をとったら留学は大変ですね。まず、卒業した後、何かすると思いますけど、方法はいろいろだから…

外国人と出会って、交流するのを楽しんでいます。今のインタビューの話で楽観的で活発な性格とよく感じました。長谷川さんが卒業してドイツ語の勉強のために2カ月ぐらい留学して感じたのは、一生で一回ぐらいは留学するのがいいと話しましたが、僕も日本で留学しているから、その話が理解できました。語学勉強じゃなくても、いろんな人生経験になると思います。

A : そろそろ最後の質問です。今、目指すビールは?

H : 僕が話した**地ビール飲んだことあるね。どうだった?

A : 普通でした。飲みやすいし、普通においしかったとは思いますが…

H : そのビールは販売しやすいビールだよ。(確かに、普通のビールの味だったと…)ビールをつくる人によって目指すビールも違うけど、僕が目指すのは普通に飲みやすくて、いっぱい飲むビールじゃない。特徴があって、一杯を飲んでもおいしいと思われるビールをつくりたいと思う。それこそ俺が目指すビールだから

A : すごいですね。そうなると思います。今も特徴があるビールも多いし、僕はビールが好きですから、「あくら」ビールはおいしいです(微笑)。

H : それは当たり前だ((笑))。

A : どうもありがとうございました((笑))。

長谷川さんの信念を感じました。つくりたいビールがはっきりしているから、それがビールの味に出ていると思います。長谷川さんの興味を持ったのは、ビールをつくったからもありますが、念を持ってビールをつくる姿がかっこいいと思います。

6. 結果と感想

長谷川さんとのインタビューは楽な雰囲気でした。(楽にするため、長谷川さんがビールを誘ったんですけど)楽しく、面白く、真面目にしたと思います。書いたものはインタビューの一部ですが、いろんな話をして、レポートに書きにくいこともありました。いらなと思った部分とか適当な話の部分は除いてです。

インタビューしておもしろかったのは他の角度から見える長谷川さんの姿です。もちろん、一緒に働きながら感じた部分も多かったですが、インタビューでもっと自由に表現するのができたのかも知れません。ビールをつくるのは好きだとは知っていましたし、誇りを持っていたと思いました(もちろん、長谷川さんはビールが好きで、誇っていますが(笑))。ただ、自身自身は真面目な人だから、どこで働いても真面目に仕事をやっていたと長谷川さんが言いました。

長谷川さんがどんな仕事をやっても真面目にやっていたと思います。多分、そんな真面目な姿が魅力に感じましたから、インタビューをしようと思ったきっかけです。自分自身が真面目かどうかというと、あまり真面目じゃない方ですから、その姿を見習いたいと思いました。

また、僕はこの仕事にこだわるとは思いましたが、ちょっと意外だったんです。もし、他の仕事をやったら、「あくら」のビールはどうなったかなと他の仕事をやらなくてよかったと思います。なんとなく、「長谷川さん≒ビール」という感じです。

長谷川さんが思う韓国について聞きました。他の日本人にどう見えるかわからないですけど自分が思っている部分を素直に答えてくれてすっきりしました。僕にとって意味があったと思います。

長谷川さんがこの仕事をやってつらかったということ(?)は、納豆を食べるべからざることで、納豆だけじゃなく、ビールの味に関する菌が入ったものは、禁食です。

7. 授業を振り返って…

僕がよかったと思ったのは、班を長くして親しくなったということです。前期の日本事情は班を3回変えることで、親しくなるのが大変だったんです。もちろん、いろんな学生と話ができるからという長所はあります。

授業のインタビューですが、面白いと思います。ただ、対象を班の人々でインタビューをしたらどうかと、判じゃなくても授業の学生をインタビューする。留学生は日本人や他の国の人とすることが多いですけど、日本人学生はそれが難しいと思います。また、留学生の中でも、留学生同士でやる人もいるらしいです。僕はこの授業が日本についてではなくて、他の国の知るきっかけになったらいいと思います。

出席のコメントですが、ネットを使ってコメントをするのはいいと思いますが、出席をとるのはちょっと問題があると思います。

彼女の魅力を探すために

G1：李智慧

目次

1. インタビュー相手を決めたきっかけ.....	1
2. 初めての出会いから仲良くなるまで.....	2
2-1. エピソード.....	2
3. インタビュー相手のイメージ.....	2
3-1. 私が考える彼女.....	2
3-2. ほかの人が考える彼女のイメージ.....	2
4. テーマメモ1から受けた質問についての答え.....	3
5. インタビューについて.....	3
5-1. インタビューの方向（目的）.....	3
5-2. インタビューの様子.....	3
5-3. インタビュー.....	3
5-4. インタビューを終えて糸子から.....	7
6. 結論.....	7
7. 日本事情IIを振り返って.....	7

1. インタビュー相手を決めたきっかけ

インタビューの相手を浮かび上がったとき、韓国の友達と日本の友達とどっちがいいのか迷いました。韓国の友達は帰ってからいつでも会えるし話し合うことができるけど、日本の友達をインタビューするのは今のところじゃないと難しいからここにいる間、日本の友達についてインタビューしながらより深く話し合ってみたいと思いました。

その中でも他の誰もなく、糸子にインタビューしたいと思った理由は大変なときに私のそば

でいつも励ましてくれたとても大切な友達だからです。

2. 初めての出会いから仲良くなるまで

初めて糸子と合ったのは今年の4月、私が日本に来たばかりのところでした。

一緒に来た韓国の留学生と韓国に留学したことがあったり韓国に興味を持っている日本人との飲み会をやったとき、知り合いになりました。その当時の私は来たばかりだったので日本語もうまく言えないし、口下手だったのであまりにも親しくなるのは難しかったです。飲み会をしたその居酒屋は糸子がバイトをやっている店だったんですけど、飲み会が終わってお会計をするときお釣りが足りなくて私だけがもらえなくなりました。そのとき糸子は後で必ず返しますって言いました。私はお釣りだから別にどうでもいいって思ったけど、お互いに時間が合わないから糸子はわざわざ何回もメールして結局返してくれました。それを見ながら韓国人だったらお釣りぐらいは気にしないしすぐ忘れるのにととてもまじめな子だな～と思いました。

その後には糸子が就職活動をしていたため、なかなか連絡がとれなくなりました。

それから、4ヵ月ぐらい経って糸子の就職活動が終わって友達と一緒に糸子の家に遊びに行くことになりました。その日、糸子が韓国で留学したときの話とか留学生の大変な生活などいろんな話ができて、それがきっかけで友達になりました。

2-1. エピソード

夏休みのとき、私がいろんな問題でとても辛くて毎日引きこもりしていたところ糸子と一緒にお酒を飲むことになりました。お酒をいっぱい飲んだ私はずっと泣いていたんですけど、糸子は理由も聞かずに静かに慰めてくれました。ほんとに姉みたいな暖かい人だと思いました。その後、私たちはもっと親しくなりました。

2人ともお酒が好きで新しい居酒屋に行ったり、買い物に行ったりいろんなところへ遊びに行きました。辛い料理が好きなので時々寮で一緒に韓国の料理を作って食べたりもします。糸子は留学した経験があったため、誰よりも私のことを理解して心配してくれます。悩みがあるときには相談にのってもらいますが、いつも自分のことのように真剣に考えてアドバイスしてくれます。また、せっかく日本に留学来たからいろんな経験をしてみたい方がいいって言われて最近新しいことをしようと頑張っています。

3. インタビュー相手のイメージ

3-1. 私が考える彼女

遊ぶときには楽しく遊んで勉強も頑張って、自分の未来についての考えがはっきりしている子です。他の人に頼らなくて自分の力で全部やっていく素敵な女だと思います。

3-2. ほかが人が考える彼女のイメージ

- お姉さんみたいな感じ
- 生活にちゃんとしてる人
- 心配りがよさそうな人

4. テーマメモ1から受けた質問についての答え

質：糸子さんは韓国語が上手ですか？

答：はい。糸子は韓国で1年間留学したので韓国語で普通の会話ができます。

質：主にどんなお酒を飲みますか？それに、よく行く居酒屋はどこですか？

答：お酒はぜんぶ飲めるが、強いて言えばビールです。よく行く店は特にはないです。珍しいメニューとかインテリアの居酒屋に行きます。

質：韓国料理はどんなものを作って食べますか？

答：キムチチゲ、プルコギ、チジミなどです。

質：新しいことってたとえばどうゆうことですか？

答：私が日本でまだやったことがないことで、パチンコに行ってみたりサークル活動をしてみるなどです。

5. インタビューについて

5-1. インタビューの方向（目的）

彼女が韓国で留学した経験などの日常生活やこれからの人生目標に基づいて魅力を探したいです。

5-2. インタビューの様子

初めて会ったとき、他の日とは違くなんだか緊張してました。彼女も私もインタビューということにすこし負担を感じたかもしれませんが、彼女は一つ一つの質問について真剣に考えて答えてくれたし話が盛り上がるにつれて自然に会話することができて楽しかったです。

5-3. インタビュー

①導入（自然な流れとともに彼女の考え方を知るため）

私：最近、何やって過ごしてるの？

彼女：卒論の発表があってその準備をやってる。その以外にはバイトいたり...
なんかいろいろ忙しいんだね。そのわけか最近ものをいっぱいなくしたの。

私：えっ、ものってどういうもの？

彼女：この前、時計なくしてその後マフラーもなくして、それにパソコンも壊れちゃったの。
卒論書くとき必要なのに...

私：そっかあ、大変だよ。ところで卒論は何について書いているの？

彼女：韓国人がよく間違いやすい日本語について韓国語と比べながら書いているよ。

彼女は最近卒論の準備でとても忙しそうでした。卒論の主題を決めた理由は韓国人の友達を見ながらよく間違いやすい表現とか言葉の使い方をより易しく使えるように韓国語と日本語の違いを分析して役に立ちたいと思ったようです。

②質問

私：そういえば糸子はどのようにして韓国に留学したいって思ったの？

彼女：私、最初は中国語がやりたくて中国語の教室に行ったことあるけど、そのときなんか学生間の雰囲気があんまりよくなくてやめたの。でも、やっぱり就職のために一つぐらいの外国語はマスターしたいと思っていたところ先生から韓国語のほうが語順も似てるし簡単だと聞いて韓国語の勉強を始めたのよ。

私：ああ～そうだったんだ。

彼女：うん。そうやって勉強しながら留学についてちょっと考えることになって先生に相談してもらったけど、別に行きます！って決めたわけではなかったの。なのに先生が授業中にみんなの前で糸子は今度韓国に留学行きますって言ってしまって、そのとき周りの友達とか一瞬“本当に行くの？どのぐらいいるの？”とか聞かれて、もうそのときは“行かないです”とか言える状況じゃなかった．．．それでしようがないから韓国に行っちゃった。

私：へえ～うける（笑）面白いね。で、韓国の留学生活はどうだったの？

彼女：思ったよりちょう楽しかった。毎日韓国の友達とお酒飲んだけどね。（笑）

あと、そうだ！いろいろな人と組合になれてそれが日本じゃできない経験だと思った。よく留学すると日本じゃできない経験ができるって言うじゃん、それって違う文化に触れるってのももちろんそうだけど私の場合、日本だと大学生だからバイト人とかサークルの人、だいたい学生とか自分と同じ年の人としか知り合えないし話せないけど、韓国に行ったときには教会に行ったりとかあと、なんか日本人にみんな話しかけてくれて注意されたこともあるし、本当にいろいろな年齢、いろいろな人たちと仲良くなっていろいろ食べてそうゆう人たちが考えてることもわかったからそんな意味で日本じゃできなかったな～と思う。それがすごく勉強になったと思う。

私：それはよかったね。いろいろな人と楽しい生活をして来て。

彼女：でもね、楽しいだけじゃなくてやっぱ、つらいこともいっぱいあったよ。

私：そう～辛いことは何だったの？

彼女：韓国語が自然にしゃべれなかったこと？発音がぜんぜんできなかったから、みんなが‘発音かわいいね’ってそのかわいいと言うのはたぶん赤ちゃん言葉みたいに聞こえるから。

私：たしかにそれはそうだろうね。

彼女：で、それ悔しいじゃん。かわいいって言われて‘えっ、かわいいの？’ってちょっと嬉しかったけど、よくよく考えてみたらすごい悔しくて、なんか何で自分は発音できいんだろうとか思ってすごくストレスになってみんなの前で話せなくなかった。でもそのおかげで頑張って勉強しようって思えたし何か手伝ってくれる先輩がいて2人でずっと頑張って勉強して今でもそんなに発音よくないけど、なんかその人のおかげでみんなにバカにされない程度にちょっとはまあ…よくなつから、なんかそれも嬉しかった。達成感を感じた。（とても嬉しい顔で）

あとは、あまり辛いことはなかったね。差別とかもされてなかったしぜんぜん。私と一

緒に留学した友達はされたって言ったけど、私はそうゆうことなかったし、みんなにすごいよくしてもらって、友達の実家に遊びに行ってお遊ばせて過ごしたりとかお盆のときにも一緒に遊んだりしてもらって、日本だとけっこう家の行事って他の人とかあまり関係ない人とかは参加できない雰囲気あるけど、韓国ではしかも日本人なのに、そうやって一緒に迎えてくれたりとかしてそれがすごく嬉しかったし、そうゆうときだけじゃなくて韓国全体的にこうゆうのがけっこうあって、なんかアパートの後ろにあるマートのおばちゃんとかも日本人ってわかったら‘大変だね、留学生たちは大変でしょ〜’とか話しかけてくれたりとか、そうゆうのもすごい嬉しかったし。たぶん韓国人の留学生が日本に来たらそうゆうのがあたりまえだったのになら寂しいと思うかもしれないけど、日本人が逆に韓国に行ったらそうゆうのがすごく嬉しいし、なんかいいなあ〜って思ってぜんぜん寂しくなかったし、日本に帰って来たときに自分も韓国がそうゆう国だとわかったから何か留学している人とかきくと寂しいだろうな〜ってというのが考えられるようになったし、何かできるかぎりみんなと一緒に遊びたいな〜って思った。

私：そっかあ、そうゆうきっかけで留学生たちにもっと関心を持つようになったんだね。

あと、ほかに大変だったのはないの？

彼女：まあ、帰国する直前にめっちゃくちゃ太ったことぐらいかな？（笑）毎日毎日お酒飲んで。語学塾でバイトしてたときにすごく忙しくて、お金もらって授業してるからさ、学生さえ教えるならいいけど学校の先生もいたし、会社員とかいるからそんな人たちに話すのすごい緊張するし、ちゃんとしたことを教えないとだめじゃん、だからそれでプレッシャーとか感じてそうゆうストレスでいろいろね、食べたり飲んだりね（笑）で、すごい太ってそれがちょっと大変だった。

語学塾で韓国人に日本語を教えるバイトをやって大変なこともあったけど、学生たちとも仲良くなったし日本語を教えるのも楽しかったし、すごく勉強になったと思っているそうです。

③質問（人生観と関連して彼女の魅力を見つけるため）

私：これからの人生設計について考えたことあるの？

彼女：まず、今就職決まったから来年入社して3年ぐらいはその会社で働きながら人脈を広げて実績も作っていつでも転職できるように頑張る！！その後は結婚して学校に通って日本語学校の先生になりたいと思ってるけど、子供が生まれたら翻訳の仕事もやりたい。それで子供が大きくなって旦那さんが定年したら外国人専用の下宿を経営したい。毎日いろんな国の人たちが集まって料理を作って食べたりお酒を飲んだりしながら楽しく過ごすのが人生の目標かな？（笑）

前から感じていたことだったんですけど、糸子はとても未来についての自分の計画とか準備がはっきりしていました。実績を作っていつでも転職できるように頑張るっていうのはいろんな仕事に挑戦してみたいからもそうだけど、本当は結婚した後にならどうかは誰もわからないし、もしかして離婚するかもしれない状況が来るとしたらちゃんと自分の仕事を持ってないと何もできないことがないからそのためにもっと頑張って実績を作りたいと思っていました。普通、私

と同じぐらいの女の子たちはそこまではあまり考えていないと思いますけど、糸子はどうなるかもしれない未来の状況にたいする準備も考えていたんです。その話を聞いてとても素敵なお女だと思いました。私の場合は小さいころから夢がありました。彼女のようにはっきりしていないかもしれないですけど、まず先生になっていい男と結婚して子供を生んだら子供がやりたい勉強とかやりたいことをさせてあげるぐらいの能力がある人になることです。なんか彼女と比べると私は自分よりは子供の幸せのための人生だと思いました。

④質問

私：一番大事だと思ってるのは何？

彼女：やっぱり家族と友人だね。いつもお世話になってるから、

また、気持ち面ではいろんなことをよく知っていろんな価値観を求めること！！

人は年、国籍、性別、生きてきた環境など違う所がたくさんあるから相手を認めることが大事だと思う。

彼女は留学した経験があったわけか、いろんな観点から考えていました。他の人と意見が合わないとして諦めなくて相手の立場で見直していました。

私：じゃあ、最後の質問です。

就職する前にやりたいことは何？

彼女：ああ～いっぱいあるよ。まず、アメリカに留学したい。

私：ふうん。何で？

彼女：やっぱり英語勉強したいし英語だけじゃなくて、えっとなんだろう。

日本って宗教ないじゃん。でも、ほかの国って宗教で社会のルールが決まったりとかするでしょ。で、それってどうゆうものなのか知りたいしそうゆうのを知っておけばコミュニケーションとるときに理解できることがもっと増えると思うのね。だから、一回アメリカに行ってそうゆうのを感じ取りながら生活しながら英語もうまくなったらいいなあ～って思ってアメリカに留学したい。

あとは何だろう。したいことって言うか、するって決めていることがあって今までお世話になった人たちに何かプレゼントしたり一緒にご飯食べに行ったりなんか恩返しをしたいなあ～っておもって。秋田の人たち...なんかけっこう仲良くなった人、バイト先の人とかになんかやって就職したいと思ってるけど、今お金がないから就職してからそうするかもしれないしまだわかんないけど。(笑)

私：やっぱりお金が問題だね。(笑) あ、そうだ。両親には？

彼女：うん。もちろん考えてるよ。なんか両親は、私3人兄弟いるけど私だけ大学に行かせてもらってしかも、留学までさせてもらってしかも、大学に行ったけど違う県で一人暮らしもしてるでしょ。すごいお金かかっていると思うのね。まあ、奨学金も借りているからその部分もあるけど、でもやっぱりこの年で学生やってる人はほとんどいないでしょ。(笑) それを考えるとやっぱりありがたいなあって思うから。ちょっとね、何かしたいと思ってます。

もともと彼女の地元は仙台なので、秋田まで大学を行かせてもらったことについて両親にとってもありがたいって言いました。彼女はそのためもっと頑張って勉強してるんだなと感じました。

5-4. インタビューを終えて糸子から

恥ずかしかったって言いました。また、自分自身をよく知ってるって思ったのによくわからなかったと言ってました。

6. 結論

彼女は留学した経験があって、留学生とか外国人についての気配りがいいです。いつも自分のことより相手の立場で考えています。また自分の勉強も頑張ってるし、未来についてもちゃんと考えてその夢に近づくために頑張っています。とても人生にはっきりした素敵な人だと思います。今回のインタビューを通して今まで知らなかったことについてもっと深い話ができました。特に糸子の留学動機ついてびっくりしました。最初から韓国が好きで韓国語を勉強するようになったと思ったのに、ただ偶然なきっかけで留学までするなんてとても驚いたんです。また彼女の将来について聞けることができ嬉しかったです。私もこれからさきもっと頑張らなきゃって思いさせてくれました。インタビューの間、とても楽しかったです。

7. 日本事情Ⅱを振り返って

最初、この授業のレポートは6400字ぐらいを書きますって聞いてびっくりしました。これからどうしたらいいんだろうととても心配でした。だけど、グループが決まって毎回話し合いながら意見を交換してインタビューに近づきました。でもインタビュー相手を決めるときから結論を書くときまで決して簡単だったことはなかったんです。誰にしたらいいのか、どんな質問をしたらいいのか、どういう形式でやるのかなど私にとってとても難しいレポートでした。でもインタビューをしながら相手についてもっと考えることができました。そしてグループ員と色々な話ができとても楽しかったです。

人と関わること

G1：村上まどか

目次

1. どうして佐々木先生にインタビューしたいか
2. インタビューで話したこと
3. インタビューの結果わかったこと
4. テーマメモ
 - 4-1.インタビュー相手の紹介
 - 4-2.「表現と人間」の授業について
 - 4-3.魅力について
 - 4-4.グループ討議での質問・コメント
5. インタビュー結果と結論
 - 5-1. コミュニケーションについて
 - 5-2. 授業について
 - 5-3. 人と関わること
 - 5-4. 結論
6. 「日本事情Ⅱ」を振り返って

1. どうして佐々木先生にインタビューしたいか

私は小さい頃から人見知りで、人と話すのが上手くないので、その道のプロである先生に話をする事のポイントについてききたいと思いました。

2. インタビューで話したこと

話をするときに気をつけることや授業についてインタビューしました。

3. インタビューの結果わかったこと

人と話すときに大切なことは、まず誰かと話をする事を楽しいと思うこと、また初めから苦手意識を持たないこと。相手と一緒にいることを心から嬉しい、楽しいと思えるようになるには、孤独な時間を味わうことも必要だということがわかりました。

4. テーマメモ

4-1.インタビュー相手の紹介

私がインタビューしたい人は、佐々木久長先生です。佐々木先生は「表現と人間」とい

う授業の担当の先生です。

4-2.「表現と人間」の授業について

「表現と人間」という授業は、人間関係やコミュニケーションについて主に学ぶ授業です。私がこの授業をとろうと思ったのは、1つは、4月に開かれたカリキュラムの相談会に行ったときに、先輩がおすすめの授業だと言っていたからです。もう1つは、私は人と話をするのが下手で話すのも聞くのもうまくできないので、この授業を受けて自分の中で少しでも変わることができたらいいな、と思ったからです。

この授業では、対人関係やコミュニケーション、傾聴などについて講義を受けました。講義の中で絵本を読むこともあります。また数回ですが、この授業を受けている人全員がくじを引き2人組を作って、3分間見つめ合いそれから会話をする、という先生曰く「出会い系」の授業もありました。この出会い系の授業では、違う学部の全く知らない人とペアになりお互い見つめ合い、そして課題として出されたテーマについて相手に話します。この間の授業では、最近つらかったこと、楽しかったことについて語りました。最初は緊張して不安な気持ちもありましたが、何回かやると何となく楽しいと思うようになりました。

4-3.魅力について

私のイメージでは、佐々木先生は人の悩みを聞いたり、相談にのったりするのがうまい人だと思います。まだインタビューをお願いしに行った時しか話したことがありませんが、人が心の中で思っていること、言おうとしていることをうまく引き出してくれるような気がします。話をするときのポイントやアドバイスもしてくれると思います。

佐々木先生の声は聞きやすく、話すときの間がとてもいいです。講義で先生が絵本を読むことがありました。その話を聞いていると自然と話の中に自分がいるような気になりました。話すときの抑揚の付け方がうまいのでしょうか。引きつけられる感じがします。大学の授業の中で気に入った授業はいくつかありますが、この授業は私の中でベスト3に入ります。授業中に居眠りをしてしまうことがよくある私ですが、この授業は眠くなりません。先生の話し方、学生の関心を引く力にとっても魅力を感じます。

4-4.グループ討議での質問・コメント

グループ討議で出た質問に、授業以外で先生と話したことはありますかと聞かれました。インタビューをお願いしに行った時に1回話ただけです。次に「間の取り方がいい」とはどういうことですか、という質問も出ました。「間の取り方がいい」とは、話しているときの速度や1語1語の間隔がちょうどよく、聞いている人が心地よいと感じることだと思います。

グループの人に聞いた先生のイメージは、優しそう、痩せている、はげている、メガネ、

研究者みたい、自分の世界がありそう、という意見が出ました。私のイメージとかぶっている所が多かったです。私のイメージでは自分の話を親身になって聞いてくれ、頼りに出来そうで癒し系の先生です。年齢や性別についても聞かれましたが、年は40代後半で、ふくよかな男の先生です。眼鏡もかけています。

5. インタビュー結果と結論

5-1. コミュニケーションについて

私は12月8日に、先生の研究室に行き、1時間程度インタビューしました。最初に私が苦手とするコミュニケーションについて、人とうまく話す方法について訊きました。

先生：「人と上手く話すには、相手の話を聞きたいと思うこと、その人と一緒にいることを楽しいと思うことが大切だね」

私：「(しみじみと) そうなんですか」

なるほど、と納得しましたが、自分が相手の話を聞きたいと思っていることを相手にうまく伝えるのは難しいと思います。相手の話を聞きながら頷いているだけでは駄目だし、下手な質問をして話が詰まってしまうと気まずいですし。先生は相手の話を聞きながら自分が関心を持った所をさらに詳しく質問したり聞いたりする、と言っていました。どんな質問をするのがよいか、質問の内容についても訊いてみましたが、それは相手によって違ってくるので一概には言えないと仰っていました。相手の興味を引くような質問を見つけるには技術と経験が必要だと思いました。

次に「コミュニケーションには技術がいる」と、いつか授業で話していたのを思い出し、コミュニケーションの技術について訊きました。

先生：「やっぱり相手の話をよく聞くことが大事だね。本当に相手の話を聞いている人は、相手の言った言葉と同じ言葉を返せるんだよ。恩返しだね」

私：「ああ。前に授業で言っていた恩返しですね」

前に傾聴についての授業で、相手の言葉を受けとめていることを相手に伝える、共感的なコメントをする、相手の話を聞きながら頷く、ということが大切だと学びました。コミュニケーションにはそれらの技術が必要だと改めて思いました。

私：「でもいろいろな人と話をするときに、自分の視野もある程度広くないとうまく話ができないですよ」

先生：「うん。それはそうだね。私は新聞や本の他にも、週刊誌を読むようにしているよ」コミュニケーションの技術は必要だと思いましたが、その他にも自分の情報量や視野が広くないといけないと思いました。それには個人の努力も必要ですね。

私：「先生は学生相談員をしたり、いろいろな人の相談を受けたりするそうですが、その時に気をつけていることはありますか」

先生：「相手を傷つけない、怒らせないことかな。相手に不快な思いをさせないことが大事だね。相談に来てよかったと思ってもらうことが大切だから。自分のところに来

てくれてありがとう、という気持ちを常に持っているよ」
自分と話していること、自分のところに来てくれたことに感謝することが大切だということを知りました。このことに今まで気づいていなかった気がしました。

5-2. 授業について

私：「先生の授業には興味をそそられ、眠くならないですが、学生の関心を引くために工夫していることはありますか」

先生：「学生に興味を持ってもらうためには、まず自分が楽しむことかな。教員の積極性も必要だね。あとこちらが一方的に話すのではなく、適度な間をおいて学生の表情を見るようにしているよ」

私：「先生が話しているときの声と間の取り方がとてもよいのですが、何か気をつけていることはありますか」

先生：「声はもともと持ったものだからしょうがないけど、間の取り方については、話す前に1呼吸おいたり、沈黙を作ったりはしているよ。あと講義のときは少しゆっくり話しているよ」

あの落ち着いていて心地よい話し方には、気を使っていたことを知りました。

私：「出会い系の授業を始めたきっかけは何かありますか」

先生：「うーん。一番は、学生に新しい人と知り合う力をつけてほしかったからかな」

私：「今年は見えていてどんな感じですか」

先生：「思っていたより印象がいいね。知らない人とのコミュニケーションに抵抗がない感じだね。人前に出て何かすることに慣れていく気がするね」

確かに最初の授業はとても緊張しましたが、他の学部の人と話す機会はあまりないので、知らない人と話ができるのは新鮮で楽しかったです。この授業を楽しんでいる人が多いのだな、と気づきました。そして絵本についてグループ討議で質問が出たので、きいてみました。

私：「授業で絵本を読むことの意図は何ですか」

先生：「絵本は授業のテーマに合ったものを選んでいて、絵本だとただ話すよりも自分の気持ちを動かしやすいじゃない、だからだよ」

私：「絵本はどうやって選んでいるのですか」

先生：「授業のテーマに合ったものを書店の絵本のコーナーで探しているよ」

絵本にはそういう意図が含まれていたことを知りました。子供向けの絵本だと話が単純で、話の中に入りやすい気がします。言いたいことも伝わりやすいですね。

5-3. 人と関わることについて

最後に人と深く付き合うコツについて訊きました。

私：「私は人と深く付き合うことができないのですが、何かアドバイスをお願いします」

先生：「長い時間一緒にいることだね。そして一緒に何かをされるといいよ。相手の嫌なところを見ても、嫌だと思わないこと。相手も自分の嫌なところを我慢してくれているのだから。あと相手のいいところを見つけるようにするといいよ」

とてもいい話を聞くことができました。これからの人生に役立てたいと思います。

最後にもうひとつ、先生に一言もらいました。

先生：「最近興味があるのは『さみしさ』だね。さみしくなることを味わわないとうれしいことも分からない。だから寂しさを経験することも必要だよ。コミュニケーションについて、自分が下手だとか苦手だとか思わないことだよ。誰かといると楽しいという気持ちを味わうことが大切だから」

とても素敵な言葉をもらいました。先生は終始、落ち着いた感じで話してくれました。私のお話をちゃんと聞いてくれている、という安心感もありました。

5-4. 結論

今日のインタビューでは、自分の聞きたいことをうまく質問できたのかよく分かりませんが、インタビューをし終えて家に帰る時、とても気分がよくてすがすがしい気持ちでした。きっと先生の言葉やインタビューしたときの心地よい雰囲気によって、自分の中にあった人と関わることへの不安や苦手意識が、少し解消されたのだと思います。また今まで誰かに話すことがなかったことを話すことができてスッキリしたということもあると思います。久々に何か達成感を得た感じがしました。雨が降っていてとても寒かったのですが、私はとてもさわやかな気分でした。先生にインタビューをして、パワーをもらいました。先生からのアドバイスが自信になったのだと思います。とても貴重な1時間でした。やはり先生は魅力的です。

6. 「日本事情Ⅱ」を振り返って

最初のオリエンテーションで、レポート6400字、毎回授業のあとにメールで授業のコメントを送ると聞き、正直面倒だと思いました。授業コメントを送るのを忘れてしばらくしてから送ることもありました。しかし、毎回少しずつレポートを書いていく形だったので、苦にはなりません。またグループごとに話し合う時間が多くあったので、グループの人とテーマメモの他にも、食べ物や言葉について、いろいろな話ことができました。この授業のおかげで留学生と話したり、大学の先生にインタビューしたりすることができました。